

横浜ユーフォニアム合奏団 新人演奏会



2022年 5月25日(水)
開演 19:00 (開場 18:30)
横浜市旭区民文化センター
サンハート音楽ホール

【主催】 横浜ユーフォニアム合奏団
【共催】 旭区役所

【後援】 横浜市文化観光局
【協賛】 セントラル楽器 下倉楽器

令和4年度旭区文化事業補助金対象公演





～ご挨拶～

本日はご来場誠に有難うございます。また、会場内でのコロナウイルス感染拡大防止対策につきまして皆様のご理解、ご協力をいただいておりますこと、重ねて感謝をいたします。

100年に一度と言われる世界的大流行の影響を受けた私達は、練習場所も無く、一緒に音を出す事も出来ないと言う状況下で、昨年度は2度の演奏会の延期と中止を経験しました。当団の存続の危機でした。

このような困難な状況の中、旭区文化事業補助金など多大なサポートをいただきまして、第12回演奏会、および今回の新人演奏会を旭区の共催事業として開催することが出来ました。

様々なご支援を頂きました本日の演奏会は、新人3名の演奏を中心に当団の委嘱作品2曲を含むソロ・アンサンブルの作品を披露させていただきます。当団は新人の登用につきまして、研修生としての期間を設け、演奏会や研修の機会を設けています。

本日はユーフォニアムの未来を切り開く新人デビューの演奏会として、会場の皆様との一体感を得ることができましたら、こんなに嬉しいことはありません。もう新人ではないメンバーの私達も、気持ちだけは新人のつもりで、ステージで精一杯の演奏を披露いたします。

さて、今回の新人演奏会、また前回の第12回演奏会におきまして、私共はコロナウイルスの感染拡大の防止とSDGs活動の一環として、他団体の演奏会におけるチラシの挟み込みを控えました。またチケットのネット販売を行いまして、紙チケットの印刷を廃止しました。この結果、当団はこれまでの活動時と比較し、A4カラー印刷、約6000枚の削減を達成しました。

日本製紙連合会が発表しております紙・板紙のライフサイクルにおけるCO2排出量を参考にしますと、A4サイズのチラシ印刷に必要な紙を作るには、1000枚で10.58kgのCO2が発生するとのこと。6000枚ですから、63kgを超えるCO2の排出の削減を達成したことになります。

(国民1人当たりのCO2の排出が1日に6kg、国民1人、1日に1kgのCO2削減が目標とされています。)

これからも当団はコロナウイルスの拡大防止対策とSDGs活動を継続して行う所存です。

皆様方にはご案内やチケットの手配にご迷惑をおかけすることもあるとは存じますが、ご支援、ご協力のほど今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

横浜ユーフォニアム合奏団 一同





～プログラム～

1. トリオ・ラブソディ(新山 久志)
1st. 中本 2nd. 金山 3rd. 伊藤
2. 風之舞(福田 洋介) 【令和4年度当団委嘱作品世界初演】
1st. 伊藤 2nd. 関口 Pf. 岡南
3. ユーフォニアム協奏曲より第1楽章 (P.スパーク)
Euph. 金山 Pf. 岡南
4. 春の呼ぶ声を聞く(高嶋 圭子)
1st. Hurtado 2nd. 深石 Pf. 岡南

5. 思い出(小山 和彦)
Euph. 山戸 Pf. 岡南
6. ソナタへ短調 TWV41より3.4楽章 (G.P.テレマン)
Euph. 関口 Pf. 岡南
7. パガニーニへのオマージュ(三浦真理) 【令和4年度当団委嘱作品世界初演】
1st. Hurtado 2nd. 深石 Pf. 岡南
8. カプリオル組曲 (P.ウォーロック)
1st. 山戸、関口 2nd. 深石 3rd. 伊藤 4th. 中本、Hurtado 5th. 金山

～委嘱作品 作曲者プロフィール～

三浦真理氏

国立音楽大学作曲科首席卒業。同大学院修了。

第1回サクソフォン協会主催作曲コンクール入選。

ピアノデュオ国際作曲コンクール第1回・第2回入選。器楽・ピアノ・合唱、作品多数。音楽教科書掲載作品では、作詞も手がける。

現在、研修会の講師、吹奏楽コンクールの審査員としても活動している。

福田洋介氏

1975年東京杉並生まれ。現在まで作・編曲は独学。

吹奏楽・管弦楽・室内楽の作・編曲および指導・指揮に力を注ぐ。

CDや楽譜が各社より多数出版され、国内外で作品の評価が近年高まっている。

佐渡裕&シエナWO、SEKAI NO OWARI、海上自衛隊音楽隊などの作編曲担当としても活動し好評を博す。

また、学生団体・一般団体の常任・客演指揮も精力的に務めている。





～委嘱作品について～

風之舞（作曲：福田洋介氏）

2004年全日本吹奏楽コンクールの課題曲である「風之舞」。同年の朝日作曲賞に選ばれました。歴代課題曲の中でも屈指の人気を誇る曲で、現在でも様々なところで演奏される名曲です。

曲のモチーフは、元々歌舞伎絵の映像につけるサントラ用にとメモしてあったもの。オリジナル編成の吹奏楽サウンドで、どう元禄文化の雰囲気を示すかを試した作品で、急-緩-急の楽曲となっています。

イメージは「架空の歌舞伎舞台」で、作品のアイデアとして時代劇のサントラを参考にした所、ジャズやラテン、時にロックまで幅広いジャンルが使用されており、本作品にはラテンのリズムを活用されたそうです。

冒頭部はタンゴを、中間部にスロールンバ、そして再現部であるタンゴへと回帰します。この作品で特徴的なのは、日本を舞台にした音楽であるが、いわゆる和の旋法を用いず、モード的なスケール（教会旋法）とジャズハーモニーを活用されたとの事です。

本日は当団委嘱作品として、作曲者本人によりユーフォニアム二重奏とピアノ版へ生まれ変わり、初演となります。

パガニーニへのオマージュ（作曲：三浦真理氏）

この作品は、フルートとピアノ版が原曲です。今回の演奏会の為に、当団の委嘱作品として、ユーフォニアム二重奏とピアノ、ユーフォニアムソロとピアノ版として、生まれ変わりました。本日はユーフォニアム二重奏とピアノ版の初演になります。

タイトルが示す通り、パガニーニの主題をもとに、5つの変奏により構成されています。ユーフォニアムによる演奏を鑑み、フルート版から移調し、音形なども工夫しています。以下、作曲者の解説を引用します。

1.ジェノバの4枚の絵葉書(第1～3変奏)

ジェノバ生まれのパガニーニから4枚の絵葉書が届きました。ジェノバの人々や風景が描かれています。パガニーニが活躍していた時代にタイムトリップしていきます。

時空を越えたメッセージです。華やかな前奏、カデンツァに続いてテーマが演奏されます。その後第1変奏～第3変奏が演奏されます。それぞれの曲想をつかんで、自由にイメージを広げてみましょう。

2.薔薇の湖(第4変奏)

夕暮れに空が薔薇色に染まります。湖も薔薇色に染まります。森に囲まれた幻想的な湖です。過去の思い出と未来への希望が、湖に染まります。ロマンティックな楽章です。

ハーモニーの美しさを感じましょう。

3.海風と波(第5変奏)

海は刻々と表情が変化します。風、波しぶき、嵐、あるときは静かな海に鳥が飛んでいきます。海の物語は未来へ続いていきます。激しいパッセージは海を表現しています。

中間部は少し静かになりますが、再現部でまた激しくなります。最後は華やかに終わります。



日本のユーフォニアム発祥の地、横浜

時は幕末、元治元年(1864年)に英国陸軍が横浜に駐屯し、英国第10連隊第1大隊の軍楽隊長としてフェントン(John William Fenton)が横浜に着任しました。

明治2年(1869年)に我が国最初の吹奏楽団、薩摩藩軍楽隊が結成され、横浜、本牧の妙香寺においてフェントンの指導を受けることになりました。フェントンは初代君が代を作曲したことで知られていますが、彼は32名のバンドを編成し、英国のディスティンを仲介としてロンドンの楽器店に楽器一式を発注しました。この楽器が到着するまで、洋式に作った日本製の横笛、ラッパ、太鼓等の教育が妙香寺にて行なわれています。

翌1870年7月31日(旧暦明治3年7月4日)、待望の楽器を積んだ船が横浜港に到着しましたが、さらにフェントンはロンドンのベッソン社に楽器購入を依頼し、同年12月17日に横浜港を出港する船に、吹奏楽器2組、64点の楽器購入代金の前金1500ドルを託しました。これが英国への2度目の注文で、この楽器は翌明治4年(1871年)に横浜港に到着しました。この年に廃藩置県が行われ、薩摩藩軍楽隊は鹿児島に帰りましたが、海軍に出仕した隊員も多く、翌明治5年(1871年)には陸軍と海軍が分離し、陸軍軍楽隊と海軍軍楽隊が発足しています。

話は戻りますが、薩摩藩軍楽隊の最初の伝習生に森山孫十郎という鼓手がありました。残念な事に明治3年1月12日に横浜において病没しました。英国から最初の楽器が到着する前の話です。その墓前に当時の隊員の名前と献辞が彫られた献灯が建てられました。この献灯には30名の名前が認められますが、この最初の伝習生達の担当楽器について後年研究が行われ、明治4年に海軍楽手として入団した折田徳道に依頼し、当時の記憶から隊員名簿が作成されました。この隊員名簿の一覧によると、「尾崎惟徳 中位大ナル楽器ニシテ(ユーホネン)ト稱セシナラン」と読む事が出来る人物がいます。また、海軍軍楽隊初代軍楽長の中村祐庸の遺録によりますと、「伝習生人名 ユーホーニオン 尾崎平次郎」との記載があります。これらの資料から、英国より日本に初めてやってきた吹奏楽の楽器一式の中に、「ユーホネン」「ユーホーニオン」と呼ばれた楽器が含まれていたことが明らかになっています。

さて、この「ユーホネン」「ユーホーニオン」などと呼ばれた最初の英国製の楽器購入の話になりますが、この取引を仲介したとされる英国のディスティン社は、1845年にロンドンで店を構え、翌年より英国内におけるサクソルン(Saxhorn ベルギーのアドルフ・サクスが考案した一連の金管楽器)の代理店になっています。

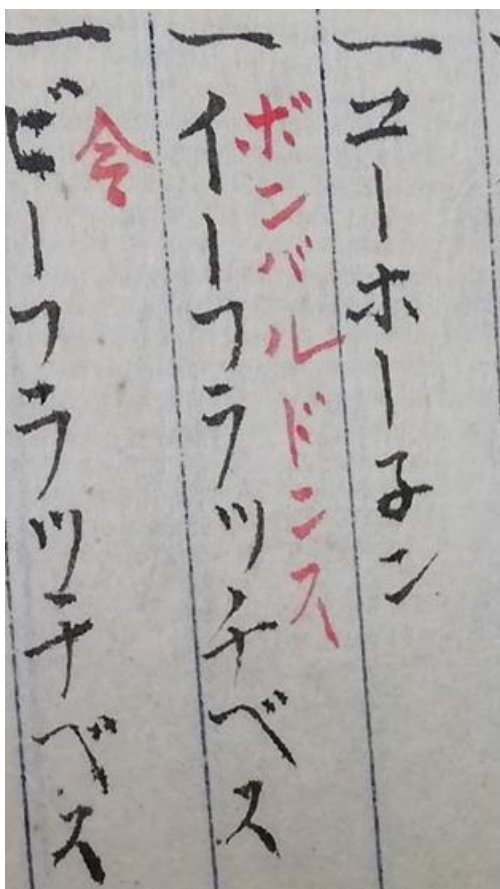
1850年よりディスティン社はサクソルンの委託生産をしていたのですが、アドルフ・サクスと経営方針が合わず、1857年頃にこの契約を解消し、以来ディスティン社のカタログからサクソルンの名前が消えて、上向きベルの金管楽器(おそらく現在フランスでサクソルンバスと呼ばれている楽器、小バス)に「Euphonion」というドイツの楽器の名称を対応させています。これに対抗するために、アドルフ・サクスは自身が制作したサクソルンを英国に持ち込み、サクソルンで統一された金管の楽団を結成、これが今日の英国の金管バンド(ブラバンド)として発展しました。

1868年にディスティン社は英国のブージーに買収されて、ブージー社(boosey & co.)が金管楽器の生産を引き継ぐ事になりました。薩摩藩軍楽隊の使用する楽器の注文をディスティンに出したのがこの翌年の1869年ですから、楽器の生産はブージー社に引き継がれています。その後、1874年にブージー社の楽器開発者によって、現在の私達の使用するユーフォニアムに装備されているコンペンセイティングバルブシステム(セミダブル方式)が発明されました。1940年にブージー社はベッソン社と合併し、現在はベッソンブランドとして足跡を残しています。

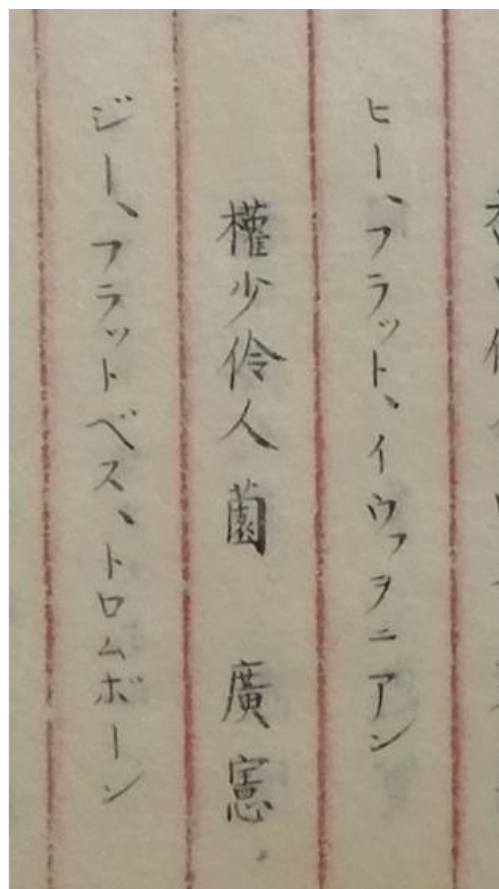
話が進みすぎました。フェントンに話を戻しますと、この後フェントンは明治5年に海軍軍楽隊、明治7年に宮内庁楽部のお雇い外国人となり、軍楽隊の隊員、雅楽を演奏する伶人に欧州楽（吹奏楽編成）を伝えています。当時の宮中の記録から、「ユーホー子ン（子は子年、ねずみ年の子です。ユーホーネン）」「ヒー、フラット、イウフラニアン（フは小文字の表記）」などの楽器名の記載を読み取ることができます。翌明治8年に西南戦争が起こり、海軍軍楽隊は鹿児島に派遣され、城山の西郷軍に惜別の演奏を送っています。

横浜はわが国ユーフォニアムの発祥の地です。

横浜ユーフォニアム合奏団 代表 深石宗太郎



「欧州楽録」 欧州楽器名称



「明治九年天長節書類」 欧州楽役割

参考文献

- 「海軍軍楽隊」 楽水会編 国書刊行会 1984年
- 「洋楽導入者の軌跡」 中村理平 刀水書房 1993年
- 「欧州楽録」 式部職 宮内公文書館蔵 自明治7年 至明治8年
- 「天長節書類」 式部職 宮内公文書館蔵 明治9年
- 「西郷隆盛惜別譜」 横田庄一郎 朔北社 2004年
- 「概説・日本の近現代史に息づく吹奏楽」 戸ノ下達也 横浜ユーフォニアム合奏団蔵 2021年
- 「日本におけるユーフォニアムの歴史」 深石宗太郎 洗足論叢 2007年
- 「明治～昭和初期における国産金管楽器についての考察」 深石宗太郎 洗足論叢 2008年
- 「ニューグローブ音楽辞典」 (英語)

出演者プロフィール

金山 美月 (かなやま みづき) ※研修生

東海大学付属高輪台高等学校卒業。
ユーフォニアムをこれまでに深石宗太郎、宇津木宏光、庄司恵子の各氏に師事。
洗足学園音楽大学管楽器コース1年生在学中。



関口 嬉架 (せきぐち きっか) ※研修生

神奈川県出身。洗足学園音楽大学管楽器コース2年生在学中。
中学校の頃よりユーフォニアムを初め、これまでにユーフォニアムを
海野百合香、深石宗太郎の各師に師事。
3歳の時の脳梗塞により左手足に麻痺があり、
演奏時にはユーフォニアム奏者としては珍しいファゴット用のストラップを使用する。

Matthew Hurtado (マシュー ヒュタード) ※研修生

テキサス州(アメリカ合衆国)出身。2015年にはテキサス州立大学(テキサス州)で音楽教育を学び、
2017年にはルイジアナ州立大学(ルイジアナ州)でユーフォニアム演奏の修士号を取得。
ユーフォニアムを演奏するほか、2018年にはプロのトロンボーン奏者として初めて日本に来て、
FNS歌謡祭に出演したり、マーチングバンド(DCI)を指導したり、多岐な活動をしている。現在、USJプレイヤー。



伊藤 優晶 (いとう まさあき)

洗足学園音楽大学卒業。尚美ミュージックカレッジ専門学校ディプロマ科修了。
ユーフォニアムをこれまでに円能寺博行、深石宗太郎、露木薫の各氏に師事。
ユッカ・ミュリウス、外園祥一郎、鈴木浩二各氏の公開レッスン、マスタークラスを受講。
第12回大阪国際音楽コンクール金管楽器の部入選。横浜市民広間演奏会会員。

中本 利輝 (なかもと としき)

洗足学園音楽大学卒業。在学中、平成26年度特別選抜演奏者に選ばれる。
第15回Brian L.Bowman記念コンクール、19歳以上一般の部にて第2位(1位なし)。
Asia Tuba&Euphonium Festival 2017内のコンペティションにて第2位。ユーフォニアムを露木薫氏に師事。
Dr.Demondrae Thurman, Dr.Brian Bowman,
Thomas Ruedi, Mark Jenkins, Matt Tropman, Benjamin Pierce、牛渡克之、
鈴木浩二、新井秀昇、伊東明彦の各氏のレッスンを受講。
横浜市民広間演奏会会員。



深石 宗太郎 (ふかいし そうたろう)

国立音楽大学を首席卒業、矢田部賞を受賞。
1986年、米国テキサス大学にて開催されたITECコンクールにおいて、日本人金管楽器奏者として
国際コンクール初入賞となるユーフォニアム部門第2位。
87年、レナード・ファルコーニ国際コンクール第3位。89年、第6回日本管打楽器コンクール第2位を受賞。
シンフォニックファンファーレ東京ソロ首席ユーフォニアム奏者。
シンフォニックプラス東京ユーフォニアム奏者。
海上保安庁音楽隊技術研修講師。慶應義塾大学ウインドアンサンブルOBバンド吹奏楽団指揮者。
洗足学園音楽大学客員教授。三浦徹氏に師事。

山戸 宏之 (やまと ひろゆき)

昭和音楽大学卒業。イギリス・バーミンガム音楽院に1年間留学。
2007年度に1年間バンドジャーナル誌にワンポイントレッスンを執筆。
現在、ヴィヴィッド・プラス・トーキョウ、トレイルブレイザーズ・テンピース・プラスのバトロン奏者。
その他、吹奏楽、アンサンブル、ソロ等でユーフォニアム、バトロン奏者として活動している。
また、演奏活動だけではなく、吹奏楽部での指揮、指導や個人レッスンにも力をそそいでいる。
ユーフォニアムを三浦徹、大房美穂、深石宗太郎、スティーブン・ミードの各氏に師事。
昭和音楽大学非常勤講師(合奏)。東京音楽院講師。



岡南 健 (おかなん たけし) 【ピアノ・賛助出演】

洗足学園音楽大学を経て同大学院修了。大学卒業時に優秀賞を受賞し卒業演奏会に出演。
同大学アンサンブルニューボーと眞鍋昭大のOcean's Voice、
徳島県立城東高等学校オーケストラ部とラフマニノフのピアノ協奏曲第2番を協演。
第22回“長江杯”国際音楽コンクールにて優秀伴奏者賞を受賞。
これまでに室内楽を清水将仁、西脇千花の両氏に、ピアノを英美生、吉武雅子の両氏に師事。